



大会でせめぎ合うア式蹴球部の選手

大阪遠征でハッスルく体育会・女子バレー部、ア式蹴球部

大学の現役学生のみなさんは、夏休みは旅行にバイトにボランティアに趣味の活動にと存分に過ごされたことでしょう。体育会の学生さんも合宿や各種大会への参加で汗を流されています。そんな中、ア式蹴球部が長

岡本周造 昭57年社会学

ア式蹴球部は、7月8日より長居競技場などで行われた第36回総理大臣杯全日本学生サッカートーナメントに出場した。関東のトーナメントを1位で通過し、優勝候補の筆頭として大阪入りした。1回戦の広島修道大戦、2回戦の静岡大戦と順調に勝ち上がり、準々決勝の中央大戦では自分たちのサッカーがなかなかできず苦しんだが、何とか勝利をおさめた。

女子バレーボール部は8月14日、京都(橋)大学と大阪(大)阪大学で夏合宿を行った。今春に1部リーグ昇格を果たした秋のリーグ戦、全日本インカレに向けて上り調子だ。一週間の合宿を終え、秋のリーグ戦などにかける思いを主務の篠沙織さん(4年)スポ科に聞いた。

「合宿前半ではかなりチームとしてまとまったと感じました。関東とはスタイルの違う関西のバレーに対して、選手同士で話をしながらブロックやレシーブの対応もでき、チームとしての意識の統一ができました。後半は、個々のスキルやメンタルの面でそれぞれが課題克服のために一試合一試合全力で戦ったことのでかかなりの成長がみられたと思います」



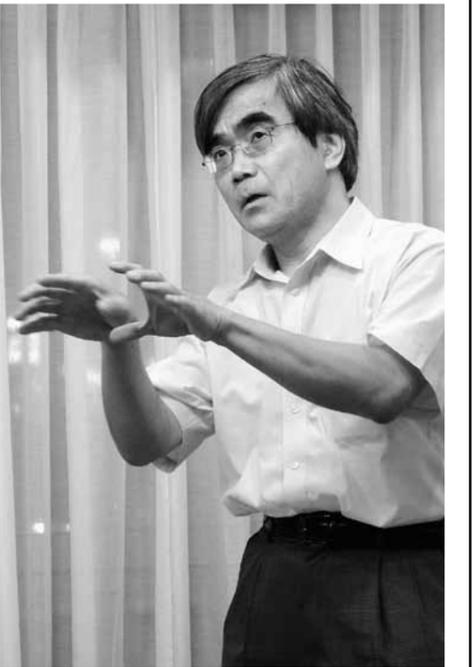
バレーへの意気込みを語る篠さん

「3年連続で大阪に遠征に来ましたが、私たちは多くの方の支え、チームとしても個人としても大きく成長できます。そのことへの感謝の気持ちを勝利というかたちでみなさんに届けたいと思っています」

1人1人早稲田大学という伝統ある大学の一人であることに誇りを持ってリーグ戦、全日本インカレを戦いたいと思います。応援よろしくお願い致します」



大阪早稲田倶楽部 NEWS



Wフォーラム講演会

東日本大震災忘れまじ

東日本大震災から一年半余り、私達の脳裏から、忘れてはならない「あの日」がいつのまにか遠のいてきているのではないが、そんな危機感から、今回の講演会「東日本大震災復興にたずさわって」を企画しました。

豊島恵子(昭52年法)

9月28日、弁護士永井幸寿氏(昭54法)をスピーカーにお願いで、約1時間の講演と引き続いての質疑応答が行われました。永井氏は、この5月まで日弁連震災復興支援委員会委員長を務められ、文字通り無報酬の手当で、被災地の皆さんのために尽力してこられた方です。

阪神大震災の被災者でもあり、かつ同震災被災者支援のボランティアとして活動した経験から、永井氏は、今回家のような活動を展開してきました。多くの同僚弁護士とともに①10万件を超える法律相談に応じ、②原発事故被害救済への対応、③震災被害処理および復興に向けた立法作業に加わり、さらに④新しい町づくりへの提言、法的援助など、多岐にわたる膨大な仕事に取り組んできたのです。

「東日本大震災の復興は長期にわたることが予想され、特に福島原発の場合は残念ながら数十年かかるものと考えられる。たとえ社会の関心がなくなっても、基本的な人権と社会正義の実現を使命とする弁護士は、志を新しい世代に引き継ぎながら未永く被災者支援を継続しなければならぬと考える。」

最後に彼の言葉を。



震災は被災地に甚大な爪痕を残した(2011年5月 福島県新地町で)



全国からの支援への感謝の気持ちは被災地のみなさんは忘れない(2011年5月 福島県相馬市で)

「一日オフで京都観光があったようですがリラックスできません。とてもリフレッシュできませんでした。それぞれ観光をしたり美味しいものを食べたりの後半の合宿に向けてパワーをつけることができました」

「それが自分の身体はチームの身体として自己管理を徹底して行うようにしていますし、ベンチメンバーはいつも自分の出番が来てもいいように準備をしっかりとやっています。リーグ戦では上位を狙っていきます。常にチャレンジャー精神を持ってチームが一つになれば絶対いけると思います」

「女子バレー部のPRを3年連続で大阪に遠征に来ましたが、私たちは多くの方の支え、チームとしても個人としても大きく成長できます。そのことへの感謝の気持ちを勝利というかたちでみなさんに届けたいと思っています」

1人1人早稲田大学という伝統ある大学の一人であることに誇りを持ってリーグ戦、全日本インカレを戦いたいと思います。応援よろしくお願い致します」



大阪早稲田倶楽部 早稲田大学校友会大阪府支部

～校友会ゴルフコンペ盛大に～ ゴルフ大会



第3回校友会大阪府支部ゴルフ大会が9月8日(土)、池田カントリー倶楽部で開催された。校友会創立125周年を記念し、大阪府支部の主催で開催した記念すべき第1回大会から3年連続で開催されている。

今年も近隣の支部や同志社大学商学部樹徳会からも参加いただき、初参加の方や若手の参加者も増え、心地よい天候の中、総勢25組95人がさわやかに競った。

優勝はグロス89、ネット69・8の金本基弘さん(昭50年商)。金本さんは第1回大会の時に実はバス

成績上位10名

順位	名前	年商	GROSS	HDCP	NET	
1	金本 基弘	45	44	89	19.2	69.8
2	竹下 三郎	40	41	81	10.8	70.2
3	大東 将啓	36	37	73	3.6	69.4
4	柏木 行道	43	45	88	16.8	71.2
5	中西 藤和	44	42	86	14.4	71.6
6	高森 浩一	46	46	92	20.4	71.6
7	角 和夫	44	42	86	14.4	71.6
8	叶 博光	43	47	90	18	72
9	大賀 浩輔	41	41	82	9.6	72.4
10	坂 光司	49	45	94	21.6	72.4

グロだったのですが、その時は賞がなかったのですが、今回優勝できて光栄です」と喜びっぱいだった。

校友ら19社(人)から松茸やマスカット、グリコお菓子みせ、アンパンマン、バッグセット、百貨店商品券、大阪新阪急ホテル食事券、ホテルラ・スイート神戸ハーバーランド宿泊券、デジタルカメラ、住江織物玄関マット、日本酒、ミュージカル公演チケット、キャディーバッグ、ゴルフボールなど盛りだくさんの賞品が上位入賞者や飛び賞の人たちにプレゼントされ、表彰式は歓声に包まれた。

表彰式での角和夫支部長からのあいさつでは、梅田北ヤード開発の大阪の明るい未来のお話があり、また11月1日の支部総会(於：大阪新阪急ホテル)の出席のお願いがあった。

準優勝は、島根県から参加いただいた自社の清酒を提供いただいた竹下三郎さん(昭45年商)、ベストグロス賞は竹田雅幸さん(昭46年商)で79。上位10位の成績は別表の通り。

※大東将啓さん(昭56年同志社OB)は本来、優勝ベストグロス賞だが、ブ口のためご辞退いただいた。

酒井敏行(平11年人科)

てくてくハイキング

西国札所で福の施しを

今回6月9日のハイキングは西国三十三箇所観音霊場の第四番札所である横尾山・施福寺(和泉市)へ。

駅から横尾山山行きバスで山門へ到着したとたん、雨が降り出し、道は比較的整備されているものの岩肌が濡れて滑りやすいため慎重に進んだ。途中、視界が開けたポイントで暫しの休憩。

地平には霞がかかって景色はよく見えなかったものの、かえって高いところまで来たように錯覚する。最後の急な石段で我々がズラリと縦列に伸びるなか、後続のハイカーに道を譲りつつ無事施福寺へ到着した。

御朱印を手にした野中先輩は、この施福寺にかつて山門付近まで来たものの諦めたといひ、今回は悲願のお参りだったとのこと。大学に合格した受験生のような安堵と興奮の入り混じった様子であった。

その後、横尾山頂へは



登らず、後半は滝畑ダムへの峠を2つ超えるルート。ポテ峠で昼食をとり一息に下山、バスの時刻にも間に合い河内長野市内へと繰り出したのでした。

私は今回で2度目の参加。

ハイキング中は基本的に黙々と歩くことが多いが、時折ぼつりぼつりと各人から知識が披露される。興味深いと思ふとともに自らの勉強不足を恥じる次第でありました。

梨本昌宏(特別賛助会員)

ビアパーティーで乾杯～ 青年部・経済部会



今年の夏も暑かったですね。ということで暑気払い。暑くても、そうでなくとも取り合えず暑気払い。青年部、経済部会は、律儀にビアパーティーを開催しております。

青年部は7月7日。夏の恒例行事として、大阪府北区の桃谷楼ビルトンブラザウエストでビアパーティー。平成卒以降の男女計36人が参加、若手同士の親睦を深めた。

ビアパーティーはクリスマスパーティーなどと並ぶ青年部の恒例行事。同店

が、着席し落ち着いて会話が出来ることに加え、桃谷楼営業部長の鈴木道隆氏が大阪早稲田倶楽部特別賛助会員であることから、本年は同店での開催となった。

パーティーでは、写真部関西演劇文化研究会などの部会紹介および行事案内も行われたほか、鈴木支配人のご厚意により紹興酒の鏡割りも行われ、会員らが木槌をふるい美酒の封を解いた。

参加した若手会員らは中華料理のフルコースに舌鼓を打ち、同じ稲門で

学んだ日を振り返りつつ、日頃の仕事を話して話した。

浅井佳穂(平17年教育)

経済部会は9月1日、こちらも北区のおなじみのアサヒビアホールで。暦のうえでは秋になってるし、9月にも入ってはいますが、残暑厳しく、納涼とはならぬやはり暑気払いの会でした。恒例とはいえ、おいしいビールを楽しむ仲間と和気藹々、堪能できるのは何よりの幸せでした。

梅雨の晴れ間の今昔物語



梅雨のさなかであるが6月30日に西宮の甲山へ。阪急甲東園駅を出て閑静な住宅街を抜けて関西学院のキャンパスに入る。緑の木々と芝生、土曜日であるがスポーツに興じたり、校舎に入りしりたりする学生が垣間見え、全員から「素晴らしい環境だなあー」の声があがった。シンボルとなる時計台をバックに芝生の庭で全員の集合写真。地元で詳しい同行の方の話では、当大学は昔、今の王子動物園のところにあったそうである。

キャンパスを抜け、緩やかな坂道を経て甲山森林公園展望台で大阪方面の眺望を楽しんだ後、いよいよ甲山(309m)に登り始める。標高からみて何でもない山に見える。だが昔は火山であったそう。登山道は幅広く整備されている。が、一つ一つの階段部分の高さがかなり高い。そして次の階段までの距離があつて歩きにくく些か疲れる。皆さんと同様ようである。ここまで整備していただいていることに感謝すべきではあるが。

山頂部は森の中の広場のような感じで、大きな盆踊りができそう。40年前は、こんなに木々が無く下界の風景を360度眺望出来たそうであるが、今は、木々も繁って眺望ゼロである。帰りは北山公園を経て、阪急甲陽園駅を目指す。土地勘のない私にはすぐ近くに思えたが、1時間くらい掛かるとのこと。ところどころ紫陽花、額紫陽花の花が目を楽しませてくれる。いくら低い山でも山は山。それなりの苦労と付随するその山独特の楽しさがある。

途中、雨にたたられ、傘を差しての車道は危険なのでバスに乗った。後は王子公園駅まで行き(今の関学から昔の関学まで行ったわけだ)、定番の「灘温泉」で入浴。さっぱりし「パンダ飯店」での打ち上げとなる。歩いて減らした力口リよりも、摂取したカロリーの方が圧倒的に多いのでは?と疑問符が付きませんが、楽しいハイキングでありました。

林 仁(特別賛助会員)